令和元年度（2019.4－2020.3）

血液事業概要

埼玉県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ …… 1ページ

埼玉県赤十字血液センターの沿革 …… 2ページ

組織機構図と職員数 …… 7ページ

血液センターの業務 …… 8ページ

施設の案内 …… 12ページ

献血ルームの案内 …… 14ページ

広報・キャンペーン活動 …… 16ページ

研修・見学 …… 18ページ

統計資料 …… 20ページ

所長あいさつ

平素より埼玉県赤十字血液センターの血液事業に対しましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和元（平成 31）年度、埼玉県では延べ 229,804 人の皆様に善意の献血へご協力いただき、血液を必要としている患者様のもとへ安定的に輸血用血液製剤をお届けすることができました。これは、献血にご協力いただきました皆様をはじめ、埼玉県・各市町村、地域の協力団体等、多くの方々のご尽力の賜物と心よりお礼を申し上げます。

さて、埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉県内における赤血球製剤の使用量増加と、血液を原料とする血漿分画製剤の需要増加に対応するため、令和元年度も様々な血液確保策を実施いたしました。県内各スポーツ団体協力のもとクリスマスキャンペーン等献血啓発イベントを開催し、献血協力者数の増加に努めるとともに、献血者の皆様へは年間複数回の献血協力と成分献血時における増量採血を推進することで、必要とされる血液量の確保を進めてまいりました。

しかしながら、令和２年に入り「新型コロナウイルス」の感染が拡大して以降、血液の確保は困難を極めました。各企業様では在宅勤務や時差出勤等の導入が進んだことで献血バスの受入れ中止が相次ぎ、不要不急の外出を自粛されたことで献血ルームへの来場者も大幅に減少しました。

このような状況下であっても、輸血用血液製剤の安定供給を継続するため、埼玉県赤十字血液センターでは報道機関やＳＮＳによる情報発信と複数回メールクラブ「ラブラッド」の活用による献血者確保に取り組みました。各メディアのご協力を得ながら「献血は不要不急に当たらない」ということ、「継続的な献血協力が必要である」ということを広く発信することで献血会場への来場を促し、かつ、献血者の皆様へはラブラッドへの加入をお願いし、献血依頼メールを受信され再来いただくことで医療需要に見合った血液確保に尽力しました。また、各献血会場では来場者の検温、マスクの着用、手指消毒等を徹底し、短時間に来場者が集中することを避けるため予約による献血を広くお願いするなど、安心安全な献血会場作りに努めました。結果、必要とされる血液を確保することができ、医療機関へ不足なく輸血用血液製剤をお届けすることができましたのは、感染拡大が続くなか、献血にご協力いただいた皆様のお力添えがあってのことであり、あらためてお礼申し上げます。

それでもなお血液の確保に関してはまだまだ予断を許す状況になく、他に代わるもののない輸血用血液製剤を患者さんへお届けするためには、皆様の献血協力が必要不可欠です。いかなる状況下であっても安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け職員一丸となって努めていく所存ですので、引き続き皆様の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和２年７月

埼玉県赤十字血液センター

所長　芝　池　伸　彰

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●1964年（昭和39年）
8月　「献血推進について」の閣議決定
11月　日赤本社から日赤埼玉県支部に移動採血車（愛の献血車）１台配備
12月　埼玉県献血推進協議会を設置

●1965年（昭和40年）
2月　埼玉県赤十字血液センターを大宮赤十字病院の一室に開設（業務開始）
6月　埼玉県赤十字血液センター施設を大宮赤十字病院の敷地内に新築落成

9月　「第１回愛の献血助け合い運動」を実施
11月　県内の保健所地区すべてに献血推進協議会を設置

●1967年（昭和42年）
3月　県内の市町村すべてに献血担当窓口を設置

●1968年（昭和43年）
4月　献血相談員制度（1971年４月に献血指導員に改称）を発足
8月　不規則抗体スクリーニング検査を開始
10月　県内最初の市町村献血組織（川越市献血会）を設置

●1969年（昭和44年）
8月　県内での献血者10万人を達成
10月　「第１回埼玉県・愛の血液助け合いの集い」を埼玉会館（浦和市）で開催
11月　県費補助金により肝機能・血液型検査サービスを開始（1977年３月まで実施）

●1970年（昭和45年）
4月　浦和出張所、大宮出張所、東松山出張所、深谷出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1971年（昭和46年）
3月　Au（HBs）抗原検査を開始
11月　川口出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1973年（昭和48年）
8月　血液成分製剤の製造を開始

●1974年（昭和49年）
4月　国庫補助金により血液代金自己負担金給付制度を発足（1986年４月廃止）

●1975年（昭和50年）
9月　血液製剤用に血液型別カラーラベルの使用を開始

●1976年（昭和51年）
8月　Ｒｈマイナス型の献血者登録を開始
11月　埼玉県赤十字血液センター施設を県立がんセンター敷地内（伊奈町）に新築移転（旧施設は大宮第二出張所に改称（1983年12月に廃止））

●1977年（昭和52年）
4月　異常値を示した献血者に対する生化学検査結果の通知を開始
6月　献血者登録制度を開始
10月　HBｓ抗原検出用試薬の製造を開始

●1978年（昭和53年）
4月　HBｓ抗原検出用試薬の全血液センターへの供給を開始

●1979年（昭和54年）
3月　県内での献血者100万人を達成

4月　HLA抗体スクリーニング検査を試験的に開始
7月　研究部（HBｓ抗原検出用試薬の製造供給・開発研究）を設置
9月　岩槻市役所で県内最初の出張（オープン）採血を実施
10月　バッグによる採血に全面切替（ビンでの採血を中止）

●1980年（昭和55年）
1月　献血手帳から優先還元に関する記載事項を削除

● **1981年（昭和56年）**

３月　第１回学術研修会を埼玉労働会館（浦和市）で開催

11月　県内での献血者150万人を達成

● **1982年（昭和57年）**

４月　献血者全員に対する生化学検査結果の通知を開始、献血手帳から供給記録欄を削除

● **1983年（昭和58年）**

４月　HLA抗体スクリーニング・抗体同定検査をルーチンとして実施、HLAタイピングトレイの製造･供給を開始（熊谷赤十字血液センターに引継ぎ、1997年９月に中止）

７月　県内２つめの血液センターとして、熊谷市に熊谷赤十字血液センターを開設（新築）

10月　県内での献血者200万人を達成

● **1984年（昭和59年）**

３月　県内最初の献血ルームとして、大宮駅近くに大宮西口献血ルームを開設（2001年７月に移転）

４月　大宮分室施設を増改築し研究部を移転

11月　米国赤十字血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

● **1985年（昭和60年）**

11月　英国の血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

● **1986年（昭和61年）**

４月　400mＬ、成分献血の実施

５月　所沢西武デパート内に所沢西武献血ルームを開設（2001年４月に移転改称）

５月　熊谷赤十字血液センターで抗ヒトグロブリン（クームス血清）の製造供給を開始（2002年３月に中止）

７月　AIDS抗体検査（ELISA法）を開始

９月　血球計数検査を開始
　　　県内での献血者300万人を達成

11月　ATL抗体検査を開始

● **1987年（昭和62年）**

７月　第23回献血運動推進全国大会を埼玉県（浦和市文化センター）で開催（ご臨席の皇太子殿下・同妃殿下が熊谷赤十字血液センターを行啓）

● **1988年（昭和63年）**

４月　越谷サンシティ内に越谷サンシティ献血ルームを開設（2008年9月 移転閉所）

● **1989年（平成元年）**

11月　HBｃ抗体検査（HI法）・HCV抗体検査（ELISA法）を開始

● **1990年（平成２年）**

７月　HLA適合血小板製剤の供給を開始

● **1991年（平成３年）**

４月　日赤埼玉県支部内に第三血液センター建設準備室を設置（1993年５月迄）

６月　CMV抗体検査を開始

11月　熊谷成分献血友の会が発足

● **1992年（平成４年）**

１月　埼玉県赤十字血液センターと熊谷赤十字血液センターに骨髄データセンターを併設

５月　大宮駅東口に大宮東口献血ルームを開設、クレアモール商店街（川越市）に川越献血ルームを開設

● **1993年（平成５年）**

４月　日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（同年９月迄）

７月　日高市に第三血液センターの竣工

10月　第三血液センターを埼玉県赤十字血液センターとし、旧・埼玉県赤十字血液センター（伊奈町）を埼玉県伊奈赤十字血液センターに、熊谷赤十字血液センターを埼玉県熊谷赤十字血液センターに名称を変更（埼玉県赤十字血液センターを中心とする３血液センターによる県内一体運営体制がスタート）

● **1994年（平成６年）**

３月　HIV－２抗体検査を開始

４月　輸血後GVHD防止のための技術（血液製剤への放射線照射）協力を開始

11月　３血液センターのオンラインシステム（血液事業統一システム）が稼動

●1995年（平成７年）

３月　医療機関に対する血液製剤直配体制に移行（供給業務委託の中止）

●1996年（平成８年）

10月　鴻巣自動車運転免許試験場敷地内に鴻巣献血ルームを開設(2014年4月 改築)

●1997年（平成９年）

10月　埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける検査業務を埼玉県赤十字血液センターに集約化

●1998年（平成10年）

６月　放射線照射輸血用血液製剤の供給を開始

●1999年（平成11年）

４月　献血者の採血基準を改正（献血年齢を69歳に引上）

５月　献血者データの全国オンラインシステムを稼動

10月　核酸増幅（ＮＡＴ）検査を導入
プールサイズを500検体でスタート

●2000年（平成12年）

１月　希望者に対するＨＴＬＶ-１抗体検査結果（異常の場合）の通知を開始

２月　核酸増幅（ＮＡＴ）検査における検体のプールサイズを50検体に変更

４月　川越献血ルームを移転し、川越献血ルームポケットとして新装開所（2011年10月 移転閉所）

６月　埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の一部（血小板製剤等の製造）を埼玉県赤十字血液センターに集約化

７月　第１回彩の国血液フォーラムを開催（以降毎年開催）

８月　熊谷駅施設内に熊谷駅献血ルームを開設（これを機に、埼玉県熊谷赤十字血液センター施設での採血を中止）

●2001年（平成13年）

４月　所沢献血ルームを移転し新装開所(2009年12月 移転閉所)

７月　大宮東口献血ルームと大宮西口献血ルームを統合し、大宮駅献血ルームとして大宮駅構内に新装開所（これを機に、埼玉県伊奈赤十字血液センター施設での採血を中止）

８月　埼玉県伊奈赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化

●2002年（平成14年）

６月　埼玉県赤十字血液センター施設の敷地内に同センター新館を建設

７月　埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化（県内における検査･製造業務の集約化が完了）
同時に、採血業務、渉外業務、管理業務等を含む血液センター業務の県内一体運営体制を確立
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が制定（全面施行は１年以内）

●2003年（平成15年）

１月　研究部を埼玉県熊谷赤十字血液センター施設内に移転（大宮分室を廃止）

６月　越谷サンシティ献血ルームを新装開所（2008年9月 移転閉所）

７月　安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律が全面施行
血液製剤の表示事項（「献血」･「非献血」の採血方法の追加等）・添付文書等の改定など（改正薬事法の施行）

●2004年（平成16年）

１月　新鮮凍結血漿の２ヶ月間（60日間）の貯留保管開始

３月　携帯メールクラブ受付開始

５月　第２次血液事業統一システムへ電算システムの変更

６月　新鮮凍結血漿の貯留保管棟を建設

８月　核酸増幅（ＮＡＴ）検査における検体のプールサイズを20検体に変更

10月　献血者本人確認の開始
保存前に白血球除去した血小板製剤の供給を開始

12月　新鮮凍結血漿の４か月間（120日間）の貯留保管を開始

●2005年（平成17年）

３月　新鮮凍結血漿の５か月間（150日間）の貯留保管を開始
６月　英国渡航歴のある方の献血受入れ制限措置を開始
７月　新鮮凍結血漿の６か月間（180日間）の貯留保管を開始

●2006年（平成18年）

３月　携帯メールクラブの全国化
　　　タッチパネル方式による問診回答システムの導入
　　　保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-５）の製造を開始
４月　埼玉県伊奈赤十字血液センターを伊奈出張所に、埼玉県熊谷赤十字血液センターを熊谷出張所に名称を変更
５月　埼玉センターでの血液製剤の県内一括受注開始
　　　川口駅東口に川口駅献血ルームを開設
７月　長野県赤十字血液センターの検査業務を開始
９月　保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-５）の供給を開始
10月　群馬県赤十字血液センターの検査業務を開始
　　　これまでの献血手帳から本人確認が簡便で携帯性に優れる「献血カード」を全国で導入

●2007年（平成19年）

１月　保存前に白血球除去した赤血球製剤の供給を開始
　　　３月末にかけて段階的に初流血除去を開始
４月　栃木県赤十字血液センターの検査業務を開始
６月　ｗｅｂ会議開始
７月　大宮駅献血ルームを移転し新装開所（2014年7月 閉所）
11月　血小板製剤の有効期限の変更（採血後４日間）

●2008年（平成20年）

２月　感染症関連検査を化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）で開始
４月　新潟県赤十字血液センターの検査業務を開始

９月　長野県赤十字血液センターの製剤業務を開始
　　　越谷献血ルームを移転し、越谷レイクタウン献血ルームとして新装開所
10月　研究部を廃止

●2009年（平成21年）

３月　糖尿病関連検査グリコアルブミン検査を開始
12月　所沢献血ルームを移転し、所沢プロペ通り献血ルームとして新装開所

●2010年（平成22年）

１月　英国渡航歴のある方の献血受入れ制限の緩和
10月　大宮駅西口に大宮献血ルーム ウエストを開設
12月　200ｍＬ全血献血者の方にも、血球計数検査結果の通知を開始

●2011年（平成23年）

4月　献血の採血基準を一部改正（男性に限り、400ｍＬ全血献血が可能な方の年齢の下限を17歳に引き下げ、血小板成分献血が可能な方の年齢の上限を69歳に引き上げた）
10月　第35回血液事業学会総会を埼玉県(埼玉会館)で開催（10/20 ～ 10/22）

10月　川越献血ルームを移転し、川越クレアモール献血ルームとして新装開所

●2012年（平成24年）

2月　東松山市に埼玉県東松山赤十字血液セン

ター (製造棟)を開設し、検査・製造業務を移転
茨城県赤十字血液センターの検査・製剤業務を開始

3月　群馬県赤十字血液センター、新潟県赤十字血液センター、栃木県赤十字血液センターの製剤業務を開始

4月　血液事業の広域運営体制の開始
組織改正に伴い、埼玉県東松山赤十字血液センターが関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所となり、北関東・信越6県の検査及び製剤業務を実施
伊奈出張所が事業所となり、埼玉県赤十字血液センターは３部、１事業所、９出張所体制に変更

８月　献血血液の検査基準の変更(輸血後のB型肝炎対策として、「HBc抗体1.0以上12.0未満かつHBs抗体200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施)

10月　シャーガス病に係る安全対策の開始

●2013年（平成25年）

１月　「献血の同意説明書」の導入
「献血の同意説明書」により献血に伴う副作用に関する事項を含む４項目について同意事項を説明し、同意いただいた方の献血受入れ開始

11月　鴻巣献血ルーム改築のため、一時閉所

12月　献血会場にて、検査目的の献血のお断りと問診事項への正しい回答で献血していただくため、「責任ある献血」の注意表示を開始

●2014年（平成26年）

１月　検査目的の献血者への注意喚起などを収載した「お願い！」パンフレットの改訂

４月　鴻巣献血ルームを改築し、開所

６月　献血者データの全国オンラインシステムを更新(血液事業情報システム)

７月　大宮駅献血ルームを閉所

８月　大宮献血ルームウエストを、面積・ベッド数ともに増加して改装
１検体ごとのＮＡＴ（個別ＮＡＴ）スクリーニングを開始

９月　血小板の安定供給を目的とした分割採血を開始

●2015年（平成27年）

３月　伊奈事業所を閉所
分画製剤の販売を終了

４月　さいたま市見沼区に本センターとしての新社屋を竣工し、埼玉県赤十字血液センターの本部機能を移転
旧埼玉センター (本センター)は日高事業所と改称

11月　越谷レイクタウン献血ルームを改装

●2016年（平成28年）

4月　献血血液のALT（肝機能）検査による製品除外基準の変更
【変更前】61IU/L以上 →【変更後】101IU/L以上

●2017年（平成29年）

4月　平成19年度から平成28年度において、高校生献血者数が10年連続全国第1位

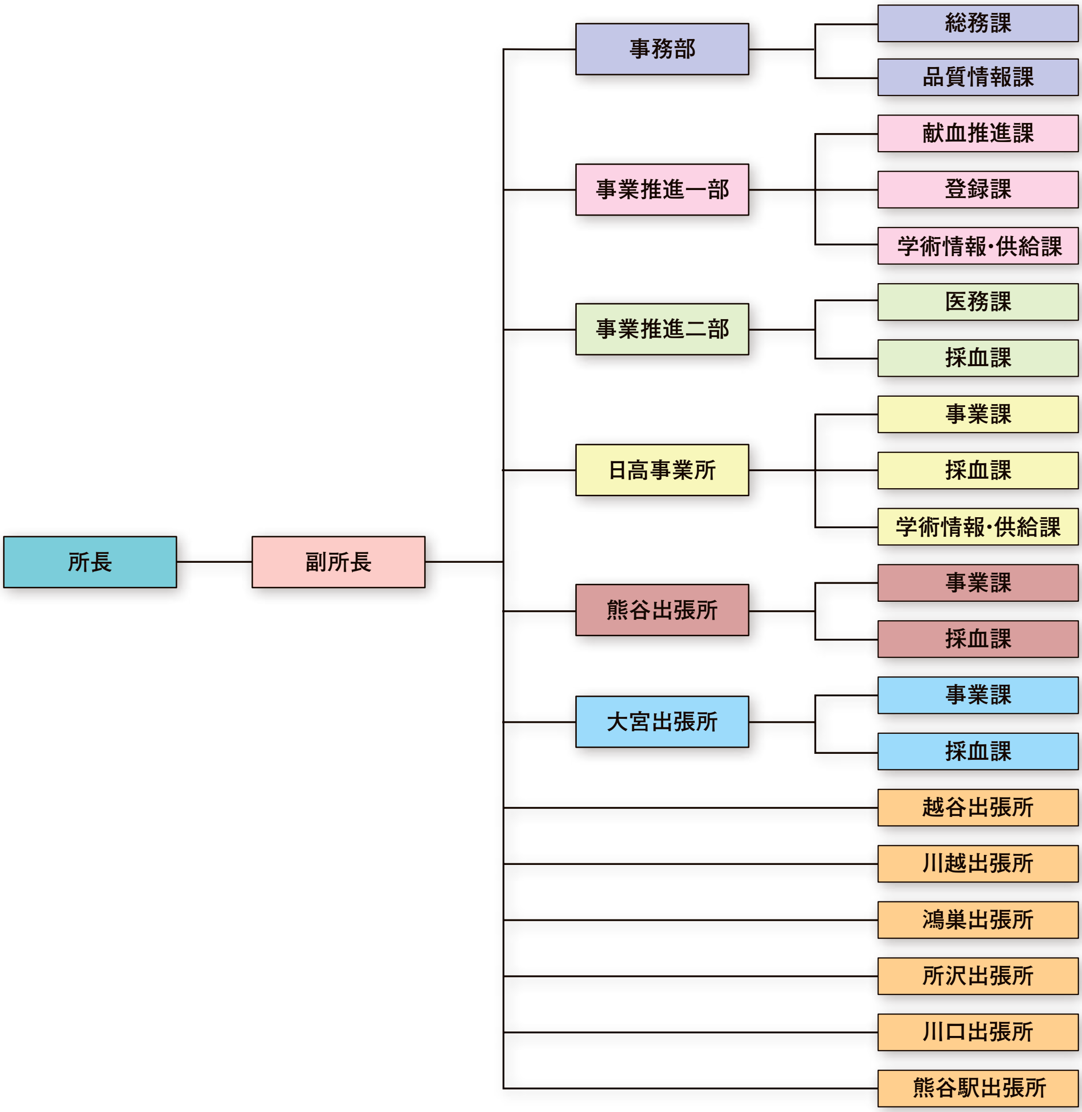
●2018年（平成30年）

10月　Web会員サービス「ラブラッド」の運用開始

●2019年（平成31年・令和元年）

12月　献血時体温測定開始

組織機構図と職員数



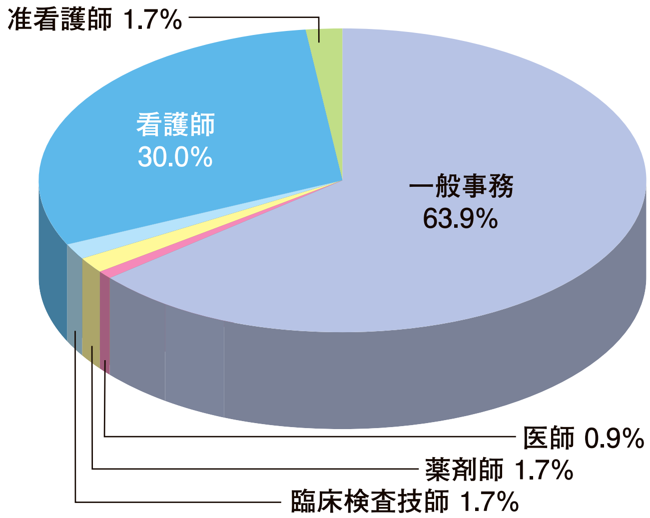
職員数

職　種	人数(人)	構成比
一　般　事　務	149	63.9%
医　　　　師	2	0.9%
薬　　剤　　師	4	1.7%
臨床検査技師	4	1.7%
その他医療職	0	0.0%
看　　護　　師	70	30.0%
准　看　護　師	4	1.7%
合　　　　計	233	100%

令和2年4月1日現在

※構成比は端数処理しているため、
合計が必ずしも100%にはならない

職種別構成比



血液センターの業務

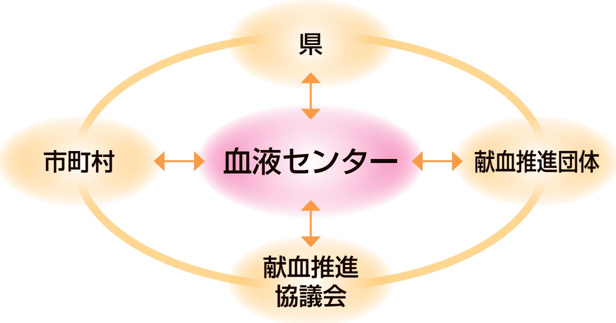
●献血者の確保

埼玉県赤十字血液センターでは、県・市町村・献血推進協議会・献血推進団体と協力し、献血計画を作成したうえで、県内の事業所や学校、また地域における献血参加を呼び掛け、日々献血される方の受け入れを行っています。

また、医療機関からの要請に対して、安定した血液の供給体制を確立するため、若年層に対する献血啓発や献血協賛企業の推進を図り、より安全な血液を確保するための各種キャンペーンを行っています。その他、Ｒｈ（－）の血液型やまれな血液型など、その患者さんにあった血液を確保する必要がある場合には、電話や手紙、メールでの献血協力要請を行っています。特に献血の依頼を迅速に行えるよう携帯電話のメールを活用した複数回献血クラブ「ラブラッド」を設立し、そのクラブへの登録も推進しています。

献血ルーム受付

移動採血



複数回献血クラブ（ラブラッド）

平成 30 年度一般公募により、複数回献血クラブの愛称を「ラブラッド」に全国統一しました。

ラブラッドは安全性の高い輸血用血液を安定的に患者さんへお届けする事を目的として、年に複数回、県内の献血会場での 400 ｍＬ献血または成分献血にご協力いただける方を募集しています。

会員の皆様には血液センターから状況に合わせた献血依頼のメールを送信し、依頼内容に合った献血をお願いしています。また、ラブラッド会員限定のイベントも開催しており、会員の皆様からご好評いただいております。

●献血依頼メール等の一例

・献血ルームにおいて成分献血を安定的に確保するための定期的な配信
・献血バスにおける 400 ｍＬ献血を安定的に確保するための配信
・献血者の減少により血液確保に困難な状況が生じている時の献血依頼
・特定の血液型が多く使用されている状況での献血依頼
・血液在庫状況のお知らせ
・イベント・キャンペーン開催のお知らせ

●ラブラッドの特典

・平成 17 年４月以降の検査成績等を見ることができます。
　また、グラフでも表示されます。
・ラブラッドポイントが貯まります。(全国共通)
・20 ポイント貯まると次回の献血時に記念品と交換ができます。
・会員様対象に開催するイベント (ヨガ教室・料理教室等) に参加できます。
・献血ルームにおける成分献血、400 ｍＬ献血の予約ができます。
・献血バス（一部会場）における 400 ｍＬ献血の予約ができます。

こちらのＱＲコードを
読み取ると開きます。

献血サポーター

※このロゴマークは企業･団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が制作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。

献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター」ロゴマークを日常の企業活動等において活用いただいています。

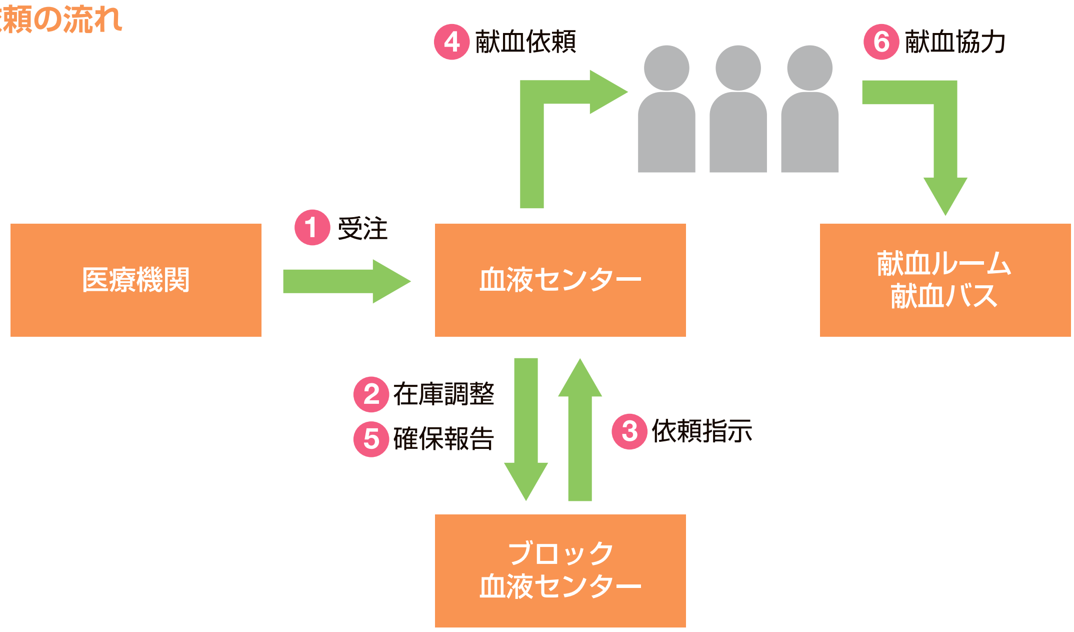
国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

特殊な血液の献血依頼要請

埼玉県赤十字血液センターでは、皆様に献血の申し込みをいただく際に、献血依頼要請の可否について確認しています。この項目にご同意いただいた方に対して、下記のような場合に電話で献血のお願いをしています。

（1）輸血用血液の在庫が不足した場合
（2）Rh(ー)の血液の在庫が必要になった場合
（3）まれな血液が必要になった場合

●献血依頼の流れ



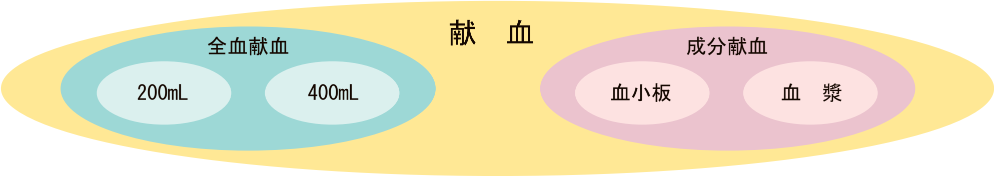
平成24年度から血液製剤のさらなる「安全性の向上」と「安定供給の確保」および「効率的な事業運営」を行うため、これまでの都道府県単位の事業運営体制を見直し、各都道府県の血液センター単位によるものから、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。このブロック化により血液在庫も広域で管理され、特殊血の在庫状況も短時間で把握できるようになりました。また、在庫にない場合にもブロックセンターが複数の血液センターに依頼要請を出すことにより、医療機関に対してより迅速な対応が可能となりました。

●採　血

　埼玉県赤十字血液センターでは、県内７か所に献血ルームを開設しています。また、県内１か所の血液センターと２か所の事業所及び出張所に配置した移動採血車を職場や地域の献血会場へ配車し、来場された献血者から採血しています。献血には下記のような種類がありますが、それぞれ採血するときには、献血者及び輸血を受ける患者さんの安全確保のために、血色素量・献血歴等の確認のほか、検診医師による血液検査ではチェックできない項目等の問診を行っています。

問　診

採血室



●供　給

　埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉センター・日高事業所・熊谷出張所の３供給施設において、各血液製剤を定められた条件下で適切に保管・管理しています。また、県内の３供給施設に血液運搬車を配備し、県内の医療機関に血液製剤を供給しています。医療機関からの発注は、埼玉センターで一括受注され、３供給施設から県内の約500医療機関に必要な血液製剤を24時間体制で供給しています。さらに、全国を７つのブロックに分け、広域的な血液製剤の需給管理体制により、輸血を必要としている患者さんのため、迅速に対応しています。

血液運搬車

供給出庫作業

供給出庫作業

●学　術

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を医療関係者に提供・収集・伝達する役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報部門がその業務を行っています。いわば医療のパートナーとして訪問活動しており、輸血関連情報や適正使用に関する情報等の提供、輸血副作用への対応、問い合わせの対応、埼玉輸血セミナーや勉強会の講師などを主な業務としています。特に輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置付けられています。

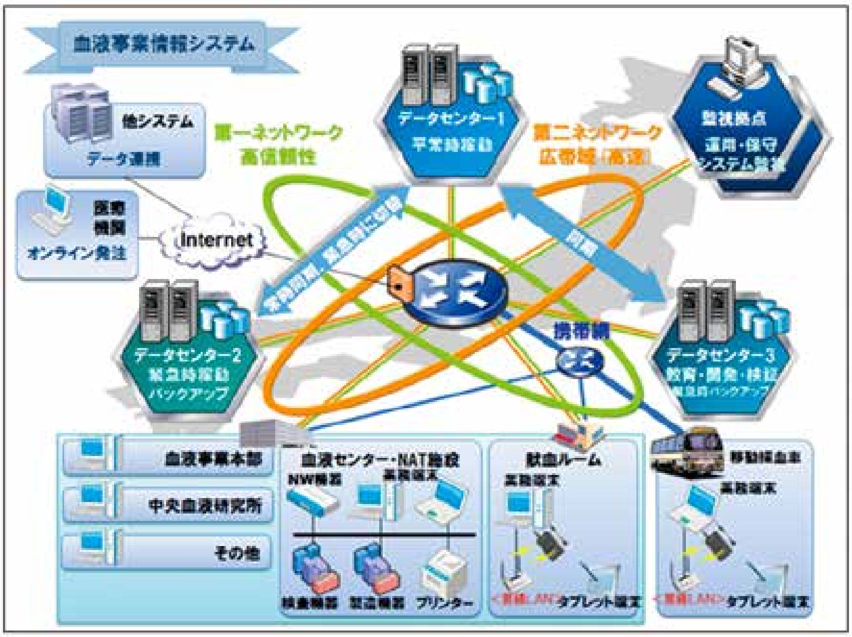
また、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、平成 21 年 7 月には県内医療機関で組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」が設置されました。令和 2 年 2 月 22 日（土）には、ソニックシティ小ホールにて「第 11 回埼玉輸血フォーラム」を開催し、同委員会での活動の成果を報告しました。

情報媒体の一例

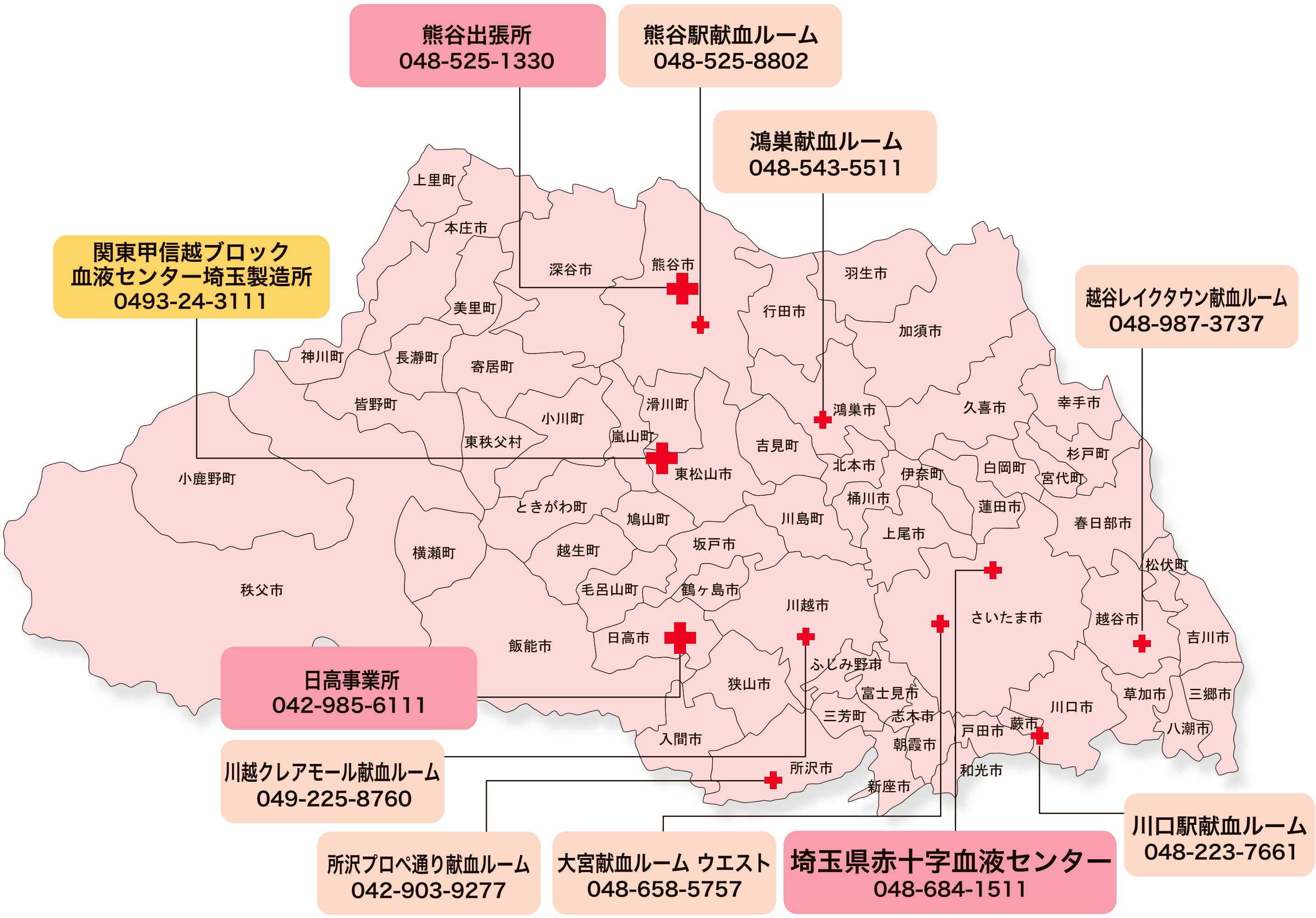
埼玉輸血フォーラム

●情報システムネットワーク

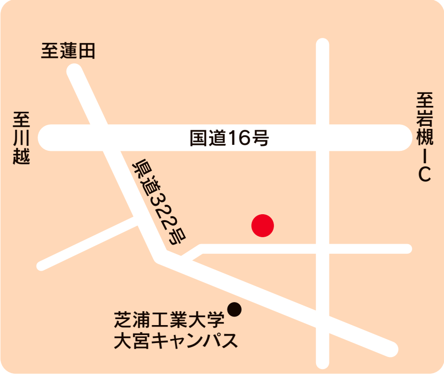
各地の血液センターでは、全国統一のコンピュータシステムを導入し、献血された血液を受け入れてから医療機関に供給するまでの業務をコンピュータ管理しています。また、全国的に整備されたオンラインネットワークを利用し、献血データの一元管理等を行って血液製剤の安全性の確保に役立てています。



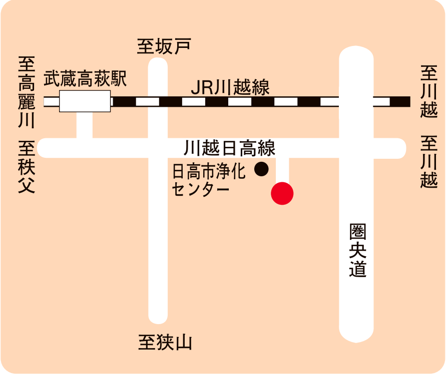
施設の案内



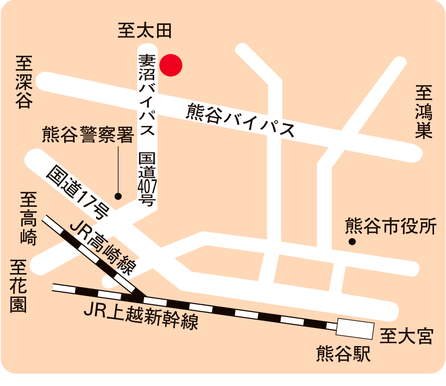
埼玉県赤十字血液センター



日高事業所



熊谷出張所



血液センター

埼玉センター全景

埼玉県赤十字血液センター

1 開設年月日　平成27年４月１日
2 所　在　地　337-0003
埼玉県さいたま市見沼区深作955-1
3 案　　　内　ＪＲ宇都宮線東大宮駅からおよそ２㎞
048－684－1511
4 敷 地 面 積　8,921.75㎡
5 建物の構造　鉄筋コンクリート造 地上２階建
6 延 床 面 積　2,794.66㎡

日高事業所

1 開設年月日　平成５年10月１日
2 所　在　地　350-1213
埼玉県日高市高萩1370-12
3 案　　　内　ＪＲ川越線武蔵高萩駅からおよそ２㎞
042－985－6111
4 敷 地 面 積　9,830㎡
（埼玉県及び日高市有地）
5 建物の構造　鉄筋コンクリート造 地上２階建（本館）
鉄筋造 地上２階建（新館）
6 延 床 面 積　2,885.0㎡（本館）
313.7㎡（新館）

日高事業所全景

熊谷出張所全景

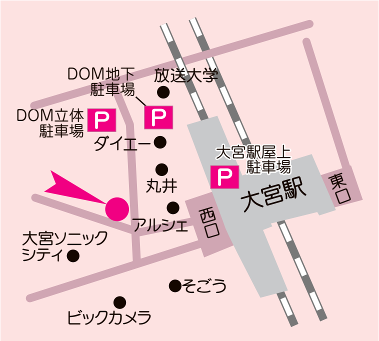
熊谷出張所

1 開設年月日　昭和58年７月１日
2 所　在　地　360-0806
埼玉県熊谷市奈良新田398-1
3 案　　　内　ＪＲ高崎線熊谷駅北口からおよそ６㎞
048－525－1330
4 敷 地 面 積　6,289㎡（熊谷市有地）
5 建物の構造　鉄筋コンクリート造
地上２階、地下１階建
6 延 床 面 積　2,613.7㎡

献血ルームの案内

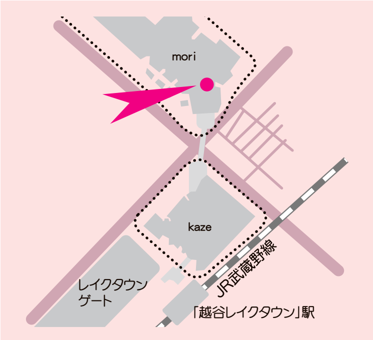
大宮献血ルーム　ウエスト

1 所在地
〒330-0854　埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-4-1
　ＤＯＭ　ＰＡＲＴⅢビル　5F・6F
2 電　話
048－658－5757
3 受付時間
9:45～18:30
4 休業日　年末年始（臨時開設があります）



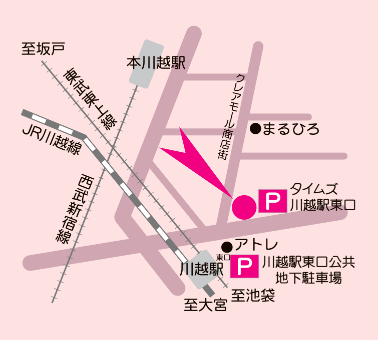
越谷レイクタウン献血ルーム

1 所在地
〒343-0828　埼玉県越谷市レイクタウン3-1-1
　イオンレイクタウンmori 1F
2 電　話
048－987－3737
3 受付時間
9:45～17:30
4 休業日　年末年始（臨時開設があります）



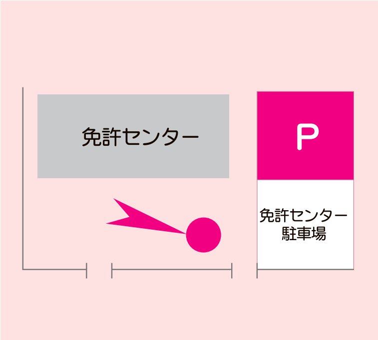
川越クレアモール献血ルーム

1 所在地
〒350-1122　埼玉県川越市脇田町4-2　4F
2 電　話
049－225－8760
3 受付時間
10:00～17:30
4 休業日　年末年始（臨時開設があります）
　ビル休館日



鴻巣献血ルーム

1 所在地
〒365-0028　埼玉県鴻巣市鴻巣405-4
　埼玉県運転免許センター内
2 電　話
048－543－5511
3 受付時間
8:45～13:00／14:00～16:30
4 休業日　土曜・祝日及び年末年始
　（運転免許センターの休業日）



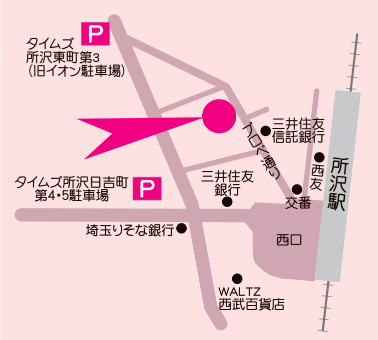
所沢プロペ通り献血ルーム

1 所在地
〒359-1123　埼玉県所沢市日吉町10-19
Tokorozawa ex2F

2 電　話
04－2903－9277

3 受付時間
9:45～13:00／14:00～17:30

4 休業日　年末年始(臨時開設があります)



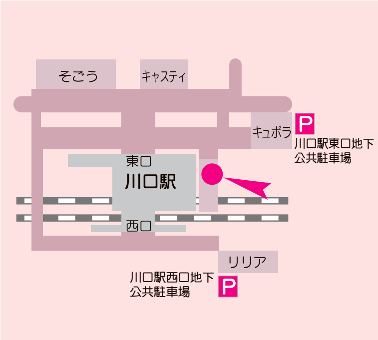
川口駅献血ルーム

1 所在地
〒332-0017　埼玉県川口市栄町3-1-24
川口駅東口ビル3F

2 電　話
048－223－7661

3 受付時間
9:45～13:00／14:00～17:30

4 休業日　年末年始(臨時開設があります)



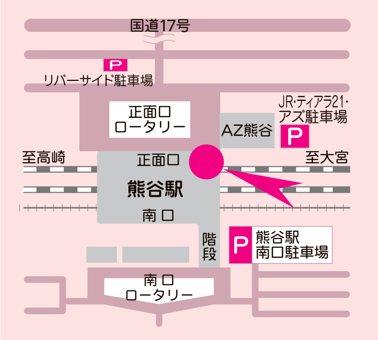
熊谷駅献血ルーム

1 所在地
〒360-0037　埼玉県熊谷市筑波2-112
ＪＲ熊谷駅構内

2 電　話
048－525－8802

3 受付時間
9:45～13:00／14:00～17:30

4 休業日　毎週木曜日
※木曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



広報・キャンペーン活動

1　新社会人応援献血キャンペーン

開 催 日	平成31年4月1日（月）～令和元年6月30日（日）
会　　場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内　　容	ポスターやSNSによるPR 献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した新社会人を対象に県が作製した記念品を配布
共　　催	埼玉県

2　世界献血者デー

開 催 日	令和元年6月12日（水）
会　　場	大宮献血ルームウエスト
内　　容	世界献血者デー（6月14日）の趣旨に則り献血者の皆様に感謝するとともに、献血の必要性を広く知って頂くため、地元のプロサッカーチームである大宮アルディージャ協力のもと、畑尾大翔選手が1日献血ルーム長を務め、献血協力を呼び掛けた。
協　　力	大宮アルディージャ

3　愛の血液助け合い運動

期　　間	令和元年7月1日（月）～ 7月31日（水）
会　　場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内　　容	「献血推進ポスターコンクール」最優秀賞ポスターの掲示
イベント	7月30日（火）「第50回彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」（埼玉会館）を開催し、献血功労者への感謝状の贈呈及びコンクール優秀作品受賞者の表彰（彩の国さいたま愛の血液助け合い運動は令和元年7月1日（月）から8月31日（土）まで実施）
主　　催	埼玉県・日本赤十字社埼玉県支部
後　　援	埼玉県教育委員会・埼玉県警察本部・埼玉県市長会・埼玉県町村会・一般社団法人埼玉県医師会・一般社団法人埼玉県歯科医師会・一般社団法人埼玉県薬剤師会・埼玉県薬事団体連合会
協　　賛	健康保険組合連合会埼玉連合会・埼玉県国民健康保険団体連合会・社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会・一般財団法人埼玉県交通安全協会

4　クリスマス献血キャンペーン

期　　間	令和元年12月22日（日）
会　　場	イオンモール羽生
内　　容	埼玉西武ライオンズ協力による献血啓発イベントの開催　献血受入　等
イベント	埼玉西武ライオンズ粟津凱士投手・佐藤龍世選手による献血ＰＲトークショー、店内パレード、献血者対象ビンゴ大会を開催 彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶぅ」、彩の国けんけつ大使「友寄蓮」、「ピーターパンJr.」によるステージイベントを開催 イオンホールにて献血を実施 埼玉県学生献血推進連盟、JRCによる献血の呼び掛けを実施

新社会人応援献血キャンペーンポスター

世界献血者デー①

世界献血者デー②

第50回 彩の国さいたま　愛の血液助け合いの集い

クリスマス献血キャンペーン①

共　　催　　日本赤十字社埼玉県支部・埼玉県学生献血推進連盟
後　　援　　埼玉県・羽生市
協　　力　　埼玉西武ライオンズ・イオンモール羽生・埼玉県青年赤十字奉仕団連絡協議会

5　「はたちの献血」キャンペーン

期　　間　　令和2年1月1日（水）～ 2月29日（土）
会　　場　　県内各移動採血車及び各献血ルーム　等
内　　容　　マスメディアやＨＰ及びＳＮＳによるＰＲ
県作製啓発用資材を成人式等で配付
献血ルーム及び献血バスにて献血に協力した新成人を中心とする若年層へ記念品を配布
共　　催　　埼玉県

6　シニア60～64（ロクマルロクヨン）初回献血キャンペーン

期　　間　　令和2年1月1日（水）～ 3月31日（火）
会　　場　　県内各移動採血車及び各献血ルーム
内　　容　　ポスターやSNSによるPR
献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した60歳から64歳の間に初めて献血された方（59歳までの献血経験の有無は問わない）を対象に県が作製した記念品を配布
共　　催　　埼玉県

7　3.11キャンペーン

開 催 日　　令和2年3月8日（日）
会　　場　　イオンモール羽生
内　　容　　災害の記憶の風化を防ぎ、助け合い・防災・減災意識を向上させるため、災害救護活動のパネル展示を開催した。
また、災害時だけではなく、平常時においても輸血を必要としている患者さんがいることを改めて認識してもらえるよう、若年層を中心とした県民各層へ献血の呼び掛けを行った。
協　　力　　イオンモール羽生

8　卒業献血キャンペーン

期　　間　　令和2年2月1日（土）～ 4月30日（木）
会　　場　　県内各移動採血車及び各献血ルーム
内　　容　　卒業する県内の高校生へPRチラシを配布し献血協力を依頼
献血協力時対象者へは県作製の記念品を進呈
共　　催　　埼玉県・埼玉県教育委員会

クリスマス献血キャンペーン②

はたちの献血キャンペーン

シニア60～64キャンペーン

卒業献血キャンペーン

研修・見学

1　臨床研修医対象研修

目的：輸血を行う立場にある医師を対象とした血液事業に対する理解の向上

埼玉医科大学　臨床研修医
　4月15日（1名）・5月7日（1名）・5月27日（1名）・6月3日（1名）・6月24日（1名）・9月24日（1名）・10月7日（1名）・
　11月25日（1名）・12月2日（1名）・12月16日（1名）・12月23日（1名）・1月14日（1名）・2月3日（1名）

埼玉医科大学総合医療センター　臨床研修医
　4月1日（1名）・5月7日（1名）・6月3日（1名）・7月1日（1名）・8月5日（1名）・9月2日（1名）・10月1日（1名）・
　11月1日（1名）・12月2日（1名）・1月6日（1名）・2月10日（1名）

埼玉医科大学国際医療センター　臨床研修医
　11月１日（１名）・11月11日（１名）・１月27日（１名）

さいたま赤十字病院　臨床研修医
　6月3日（1名）・6月24日（1名）・7月1日（1名）・7月22日（1名）・8月5日（1名）・8月13日（1名）・8月19日（1名）・
　8月26日（1名）・9月2日（1名）・9月9日（1名）・9月17日（2名）・9月30日（1名）・10月28日（1名）

深谷赤十字病院　臨床研修医
　10月7日（1名）・10月28日（1名）・11月25日（1名）・12月16日（1名）

参加人数合計：45名

2　学生対象研修

（1）埼玉県学生献血推進連盟“赤い絆”新規加入者宿泊研修
　目的：学生献血推進連盟新規加盟者を対象とした献血についての基礎知識の取得、学生献血推進連盟OB・OGの講演にて活動意義の理解やモチベーション向上を図る。
　８月23日（金）・24日（土）
　参加人数合計：32名

（2）学生献血推進リーダーの集い
　目的：各地域センターでの若年層献血者確保に対する取り組みやキャンペーンの報告並びに情報の共有を図り活動の幅を広げる。
　９月５日（木）・６日（金）
　参加人数合計：28名

学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修①

学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修②

学生献血推進リーダーの集い①

学生献血推進リーダーの集い②

３　学生を対象とした講座

目的：将来の献血を担う若年層を対象とした献血の重要性の伝達

６月19日(水)　入間市立東金子小学校（教員13名・他14名）
６月20日(木)　川口市立慈林小学校（生徒100名・教員30名・他20名）
６月21日(金)　関東福祉専門学校（生徒48名・教員２名）
６月26日(水)　川口市立芝南小学校（生徒８名・教員25名・他14名）
７月 ５日(金)　鴻巣市立下忍小学校（生徒82名・教員８名・他23名）
７月12日(金)　春日部市立立野小学校（教員９名・他23名）
７月18日(木)　蕨市立第一中学校（教員７名・他11名）
７月23日(火)　宮代町立百間小学校（教員20名・他３名）
10月10日(木)　埼玉県立深谷高等学校（生徒219名・教員16名）
10月11日(金)　吉川市立東中学校（生徒460名・教員30名）
10月24日(木)　深谷市立藤沢小学校（教員12名・他60名）
10月29日(火)　川口市立芝中学校（生徒340名・教員25名・他７名）
11月15日(金)　埼玉県立小鹿野高等学校（生徒180名・教員20名）
11月20日(水)　埼玉県立熊谷高等学校（定時制）（生徒31名・教員９名）
11月21日(木)　埼玉県立児玉高等学校（生徒106名・教員12名）
11月28日(木)　宮代町立前原中学校（生徒149名・教員14名・他17名）
12月 ５日(木)　埼玉県立越生高等学校（生徒135名・教員９名）
12月18日(水)　春日部市立南桜井小学校（生徒60名・教員４名）
12月19日(木)　埼玉県立鴻巣高等学校（生徒268名・教員17名）
１月 ９日(木)　埼玉県立飯能南高等学校（生徒 540名・教員40名）
１月23日(木)　上尾市立大谷小学校（教員39名・他30名）
１月27日(月)　所沢市立柳瀬小学校（教員24名・他23名）
２月 １日(土)　浦和学院高等学校（生徒726名）
２月14日(金)　川越市立南古谷小学校（教員５名・他30名）
２月26日(水)　埼玉県立川口北高等学校（生徒362名・他５名）

参加人数合計：生徒3,814名　教員・他670名

春日部市立南桜井小学校

吉川市立東中学校

埼玉県立川口北高等学校

４　献血協力団体における献血研修会

目的：献血協力団体を対象とした献血の現状報告や健康や献血に関する知識の共有

５月 ３日（金）　天理教埼玉教務支庁（30名）
10月29日（火）　埼玉県立春日部高等学校（10名）
12月17日（火）　埼玉県立春日部高等学校（10名）
（関東甲信越ブロック血液センター　埼玉製造所見学）

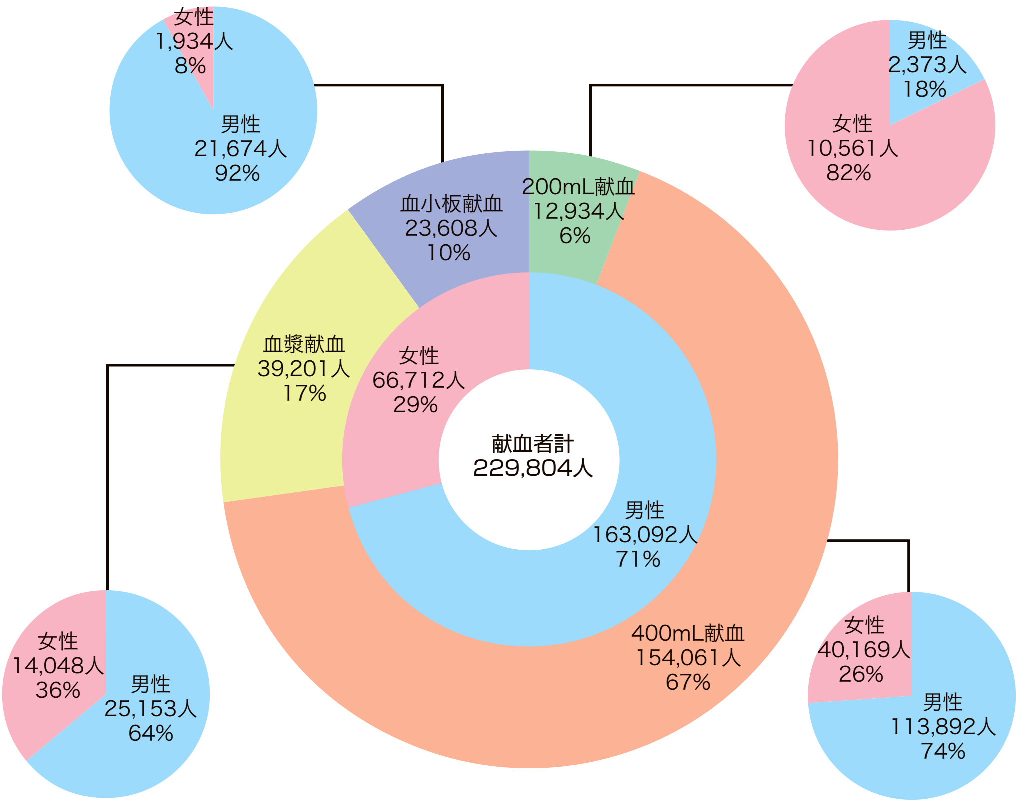
参加人数合計：50名

５　大学生に向けた研修会等

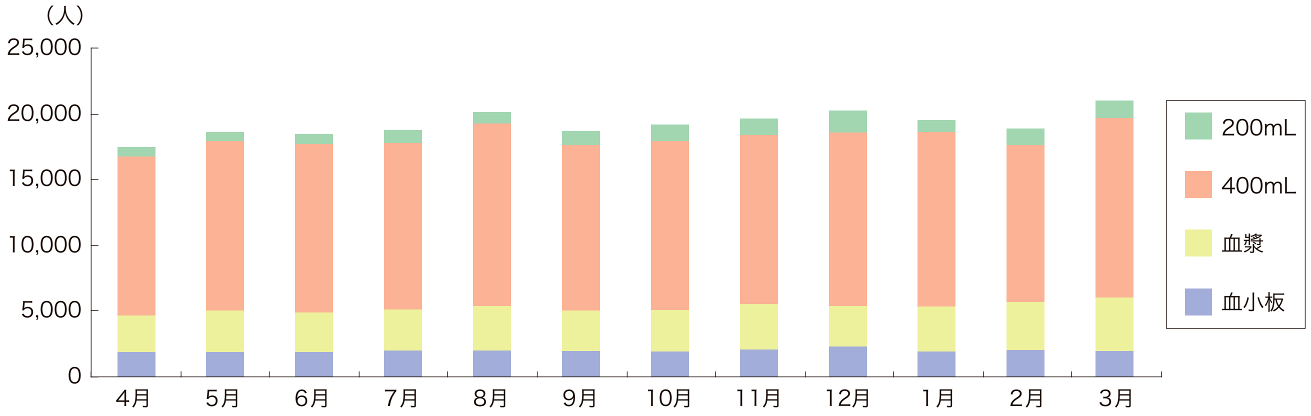
跡見学園女子大学　インターンシップ・研修会
日本薬科大学

統計資料

1　献血種類別献血者数



月別献血者数



（人）

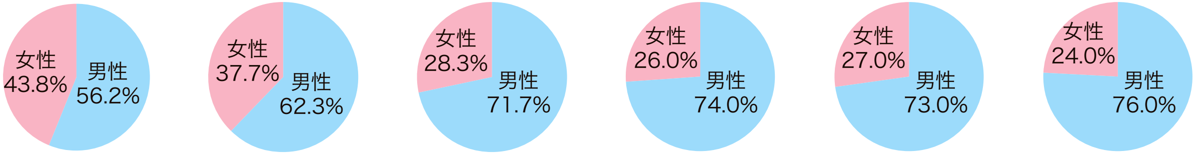
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	229,804	17,384	18,536	18,360	18,659	19,994	18,561	19,088	19,950	20,153	19,433	18,784	20,902
200mL	12,934	720	716	750	993	833	1,022	1,269	1,432	1,687	925	1,271	1,316
400mL	154,061	12,029	12,830	12,747	12,577	13,814	12,514	12,762	13,001	13,118	13,221	11,878	13,570
血　漿	39,201	2,772	3,117	2,992	3,090	3,378	3,086	3,162	3,467	3,075	3,370	3,612	4,080
血小板	23,608	1,863	1,873	1,871	1,999	1,969	1,939	1,895	2,050	2,273	1,917	2,023	1,936

2　年代別献血者数

（人）

男性

16 ～ 19歳		20 ～ 29歳		30 ～ 39歳		40 ～ 49歳		50 ～ 59歳		60 ～ 69歳	
合　計	7,475	合　計	18,898	合　計	25,954	合　計	48,815	合　計	44,797	合　計	17,153
200mL	1,952	200mL	136	200mL	61	200mL	67	200mL	79	200mL	78
400mL	5,130	400mL	15,699	400mL	18,969	400mL	33,775	400mL	29,498	400mL	10,821
血　漿	239	血　漿	1,602	血　漿	3,479	血　漿	7,356	血　漿	8,323	血　漿	4,154
血小板	154	血小板	1,461	血小板	3,445	血小板	7,617	血小板	6,897	血小板	2,100



（人）

女性

16 ～ 19歳		20 ～ 29歳		30 ～ 39歳		40 ～ 49歳		50 ～ 59歳		60 ～ 69歳	
合　計	5,815	合　計	11,460	合　計	10,262	合　計	17,160	合　計	16,584	合　計	5,431
200mL	3,900	200mL	1,673	200mL	1,045	200mL	1,622	200mL	1,676	200mL	645
400mL	1,714	400mL	7,555	400mL	6,184	400mL	10,777	400mL	10,455	400mL	3,484
血　漿	175	血　漿	1,940	血　漿	2,540	血　漿	3,968	血　漿	4,123	血　漿	1,302
血小板	26	血小板	292	血小板	493	血小板	793	血小板	330	血小板	0

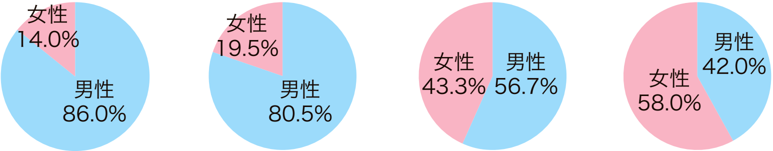
3　職業別献血者数

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

（人）

男性

公務員		会社員		学生		その他	
合　計	24,795	合　計	106,715	合　計	10,965	合　計	20,617
200mL	69	200mL	266	200mL	1,940	200mL	98
400mL	18,586	400mL	74,073	400mL	8,049	400mL	13,184
血　漿	3,386	血　漿	17,271	血　漿	554	血　漿	3,942
血小板	2,754	血小板	15,105	血小板	422	血小板	3,393



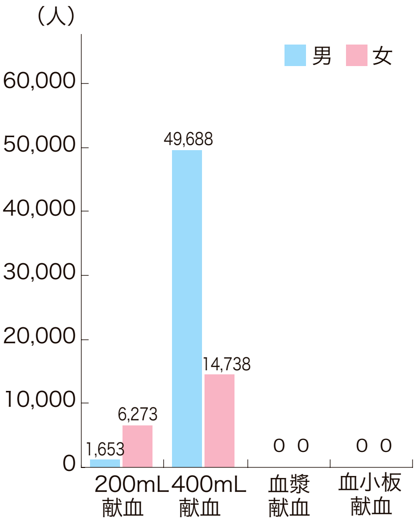
（人）

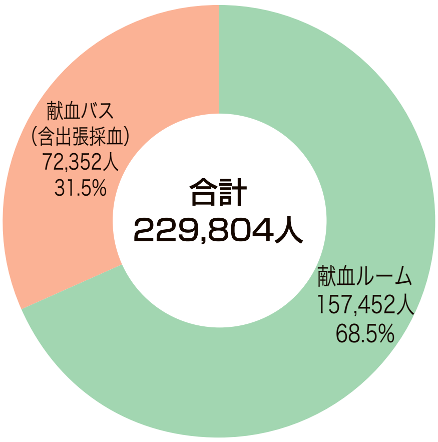
女性

公務員		会社員		学生		その他	
合　計	4,046	合　計	25,821	合　計	8,382	合　計	28,463
200mL	532	200mL	2,880	200mL	4,296	200mL	2,853
400mL	2,608	400mL	16,640	400mL	3,430	400mL	17,491
血　漿	814	血　漿	5,438	血　漿	579	血　漿	7,217
血小板	92	血小板	863	血小板	77	血小板	902

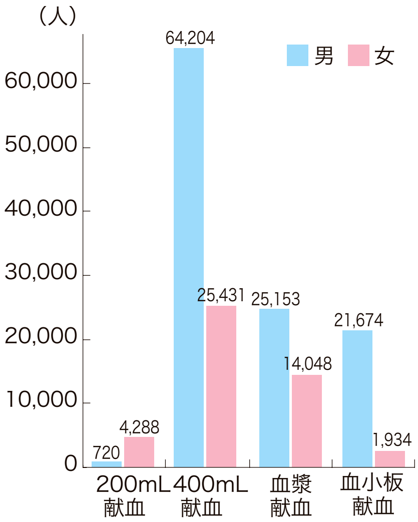
4　受入施設別献血者数

移動採血





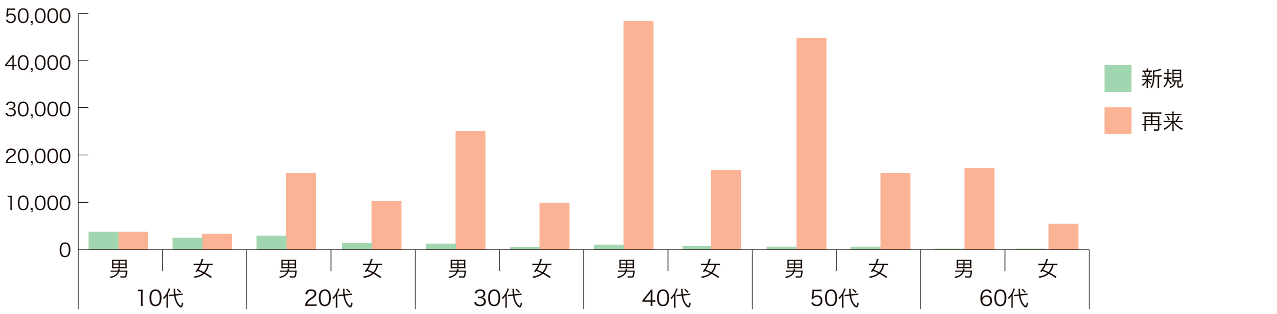
献血ルーム



5　年代別新規再来献血者数

（人）

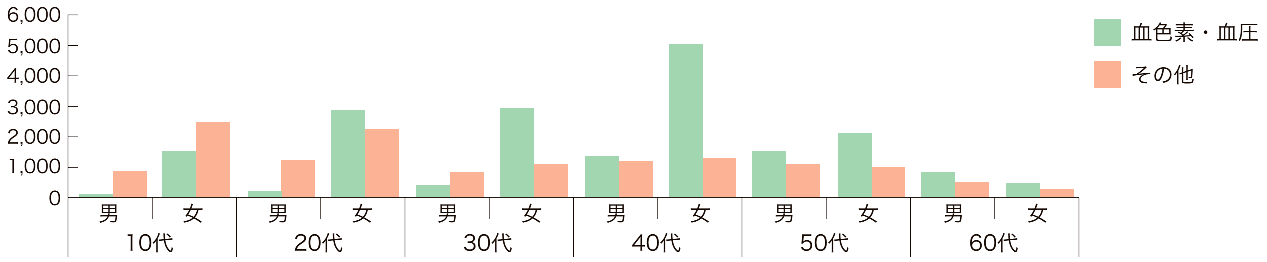
		10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合　計	229,804	7,475	5,815	18,898	11,460	25,954	10,262	48,815	17,160	44,797	16,584	17,153	5,431	163,092	66,712
新　規	15,049	3,740	2,490	2,835	1,352	1,161	502	993	626	567	612	90	81	9,386	5,663
再　来	214,755	3,735	3,325	16,063	10,108	24,793	9,760	47,822	16,534	44,230	15,972	17,063	5,350	153,706	61,049



6　献血不適格者数

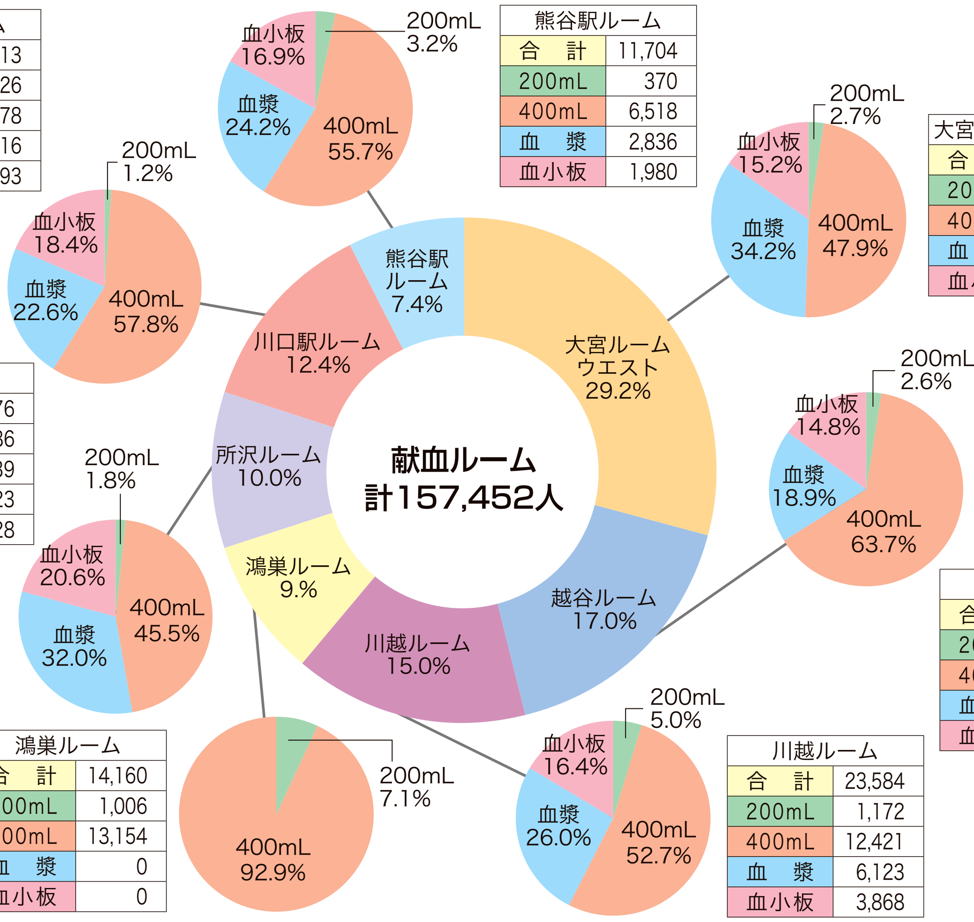
（人）

		10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	33,529	962	4,010	1,434	5,130	1,249	4,022	2,551	6,367	2,610	3,126	1,334	734	10,140	23,389
血色素・血圧	19,418	101	1,519	194	2,867	408	2,939	1,351	5,073	1,516	2,136	837	477	4,407	15,011
その他	14,111	861	2,491	1,240	2,263	841	1,083	1,200	1,294	1,094	990	497	257	5,733	8,378



7　献血ルームの受入状況

①献血ルーム別献血者数



川口駅ルーム	
合　計	19,513
200mL	226
400mL	11,278
血　漿	4,416
血小板	3,593

熊谷駅ルーム	
合　計	11,704
200mL	370
400mL	6,518
血　漿	2,836
血小板	1,980

大宮ルームウエスト	
合　計	45,978
200mL	1,242
400mL	22,040
血　漿	15,729
血小板	6,967

所沢ルーム	
合　計	15,676
200mL	286
400mL	7,139
血　漿	5,023
血小板	3,228

越谷ルーム	
合　計	26,837
200mL	706
400mL	17,085
血　漿	5,074
血小板	3,972

鴻巣ルーム	
合　計	14,160
200mL	1,006
400mL	13,154
血　漿	0
血小板	0

川越ルーム	
合　計	23,584
200mL	1,172
400mL	12,421
血　漿	6,123
血小板	3,868

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

②職業別献血者数

（人）

		公務員		会社員		高校生		学生		その他	
	合　計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合　計	157,452	12,310	2,208	77,362	17,597	1,599	2,041	4,071	3,090	16,409	20,765
ウエスト	45,978	4,017	773	22,584	5,299	491	726	1,261	969	4,239	5,619
越　谷	26,837	1,985	308	13,484	2,856	281	347	547	396	2,547	4,086
川　越	23,584	1,808	315	10,941	2,619	387	412	930	643	2,590	2,939
鴻　巣	14,160	720	152	7,177	1,575	78	66	393	272	1,690	2,037
所　沢	15,676	1,727	279	7,046	1,652	116	172	382	416	1,841	2,045
川口駅	19,513	1,097	209	10,125	2,438	130	183	341	242	2,116	2,632
熊谷駅	11,704	956	172	6,005	1,158	116	135	217	152	1,386	1,407

③新規再来別献血者数

（人）

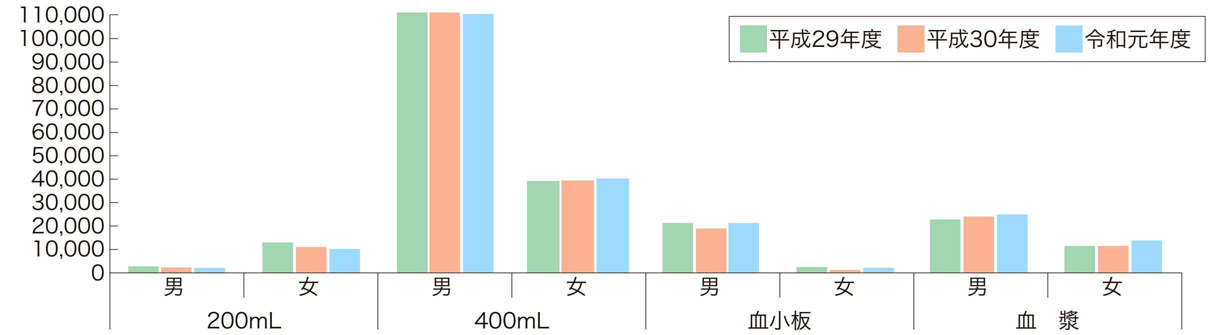
		新規		再来	
	合計	男	女	男	女
合　計	157,452	3,220	2,549	108,531	43,152
ウエスト	45,978	651	579	31,941	12,807
越　谷	26,837	597	470	18,247	7,523
川　越	23,584	473	416	16,183	6,512
鴻　巣	14,160	804	445	9,254	3,657
所　沢	15,676	175	225	10,937	4,339
川口駅	19,513	352	294	13,457	5,410
熊谷駅	11,704	168	120	8,512	2,904

8　献血者の推移

①献血種類別の推移

（人）

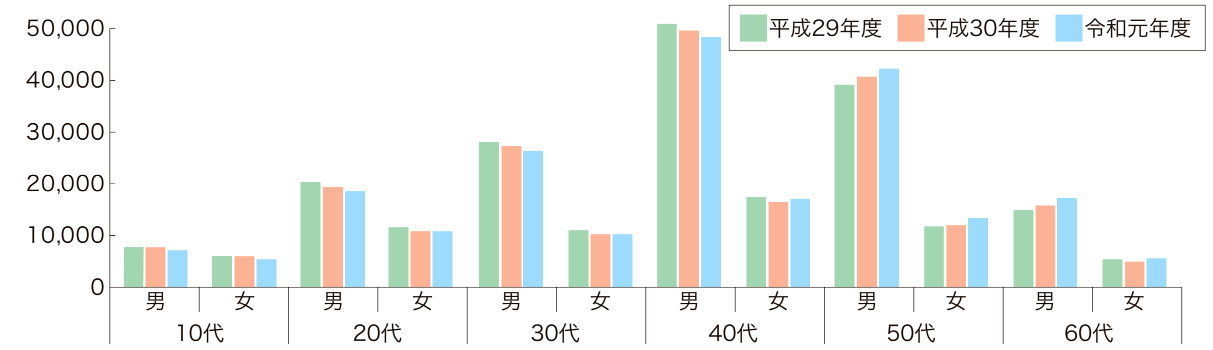
		200mL		400mL		血小板		血漿		計	
	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成29年度	228,892	2,994	13,393	114,370	39,269	21,856	2,166	23,234	11,610	162,454	66,438
平成30年度	224,792	2,633	11,105	114,829	39,569	19,315	1,302	24,044	11,995	160,821	63,971
令和元年度	229,804	2,373	10,561	113,892	40,169	21,674	1,934	25,153	14,048	163,092	66,712



②年齢別の推移

（人）

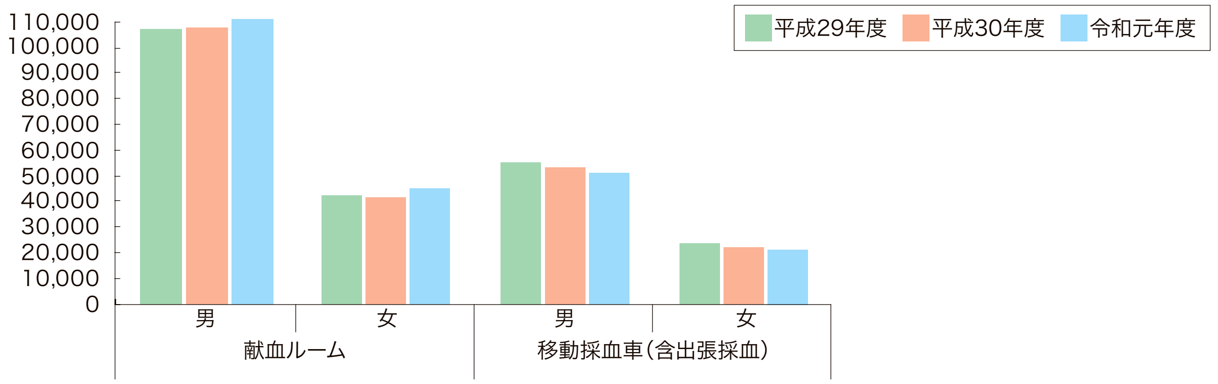
		10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成29年度	228,892	8,319	6,339	20,682	12,264	27,719	10,917	51,154	17,560	39,357	14,068	15,223	5,290	162,454	66,438
平成30年度	224,792	8,174	6,336	19,756	11,358	26,068	10,167	49,688	16,824	41,274	14,230	15,861	5,056	160,821	63,971
令和元年度	229,804	7,475	5,815	18,898	11,460	25,954	10,262	48,815	17,160	44,797	16,584	17,153	5,431	163,092	66,712



③受入施設別推移

（人）

		献血ルーム		移動採血車（含出張採血）		計	
	合計	男	女	男	女	男	女
平成29年度	228,892	107,155	42,553	55,299	23,885	162,454	66,438
平成30年度	224,792	107,472	41,577	53,349	22,394	160,821	63,971
令和元年度	229,804	111,751	45,701	51,341	21,011	163,092	66,712

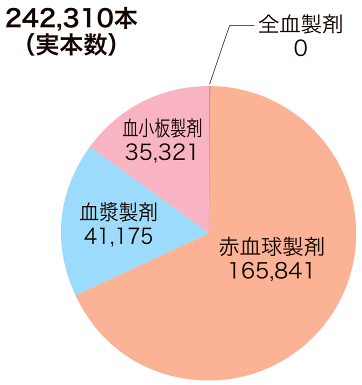


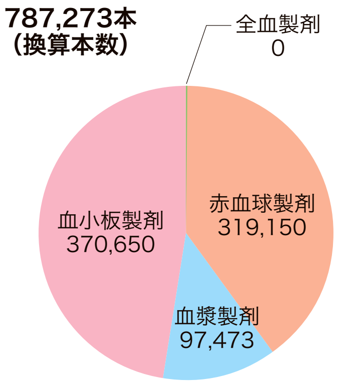
9　供給の状況

①血液製剤種類別供給数

※「単位換算本数」は、各製剤の単位数を本数に換算した本数

	1単位製剤	2単位製剤	成　　分						本数合計	単位換算
			FFP-480	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位		
全 血 製 剤	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0
赤血球製剤	12,478	153,336	—	—	—	—	—	—	165,814	319,150
血 漿 製 剤	1,201	31,812	8,162	—	—	—	—	—	41,175	97,473
血小板製剤	—	—	—	0	258	32,279	1,822	962	35,321	370,650
合　計	13,679	185,148	8,162	0	258	32,279	1,822	962	242,310	787,273



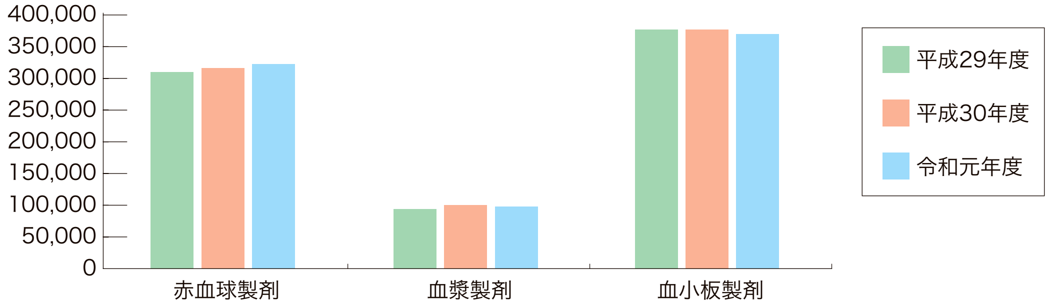


②輸血用血液製剤の推移

（単位換算）

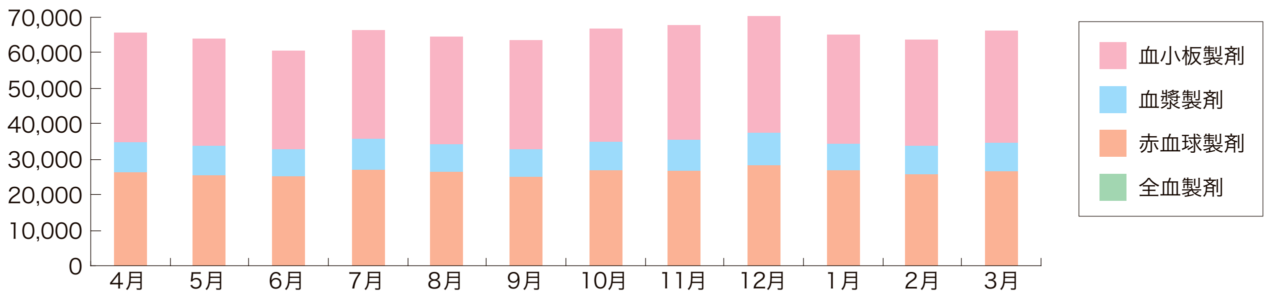
	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成29年度	784,174	0	311,531	93,906.0	378,737
平成30年度	794,720	4	317,945	99,292.0	377,479
令和元年度	787,273	0	319,150	97,473.0	370,650

※平成29年度に血漿製剤の換算方法が変更となりました。



※全血製剤は、値が小さいため省略した。

③月別供給数

（単位換算）

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全 血 製 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	319,150	26,441	26,000	25,300	27,231	26,582	25,229	27,221	26,932	28,483	26,983	26,024	26,724
血 漿 製 剤	97,473	8,293	8,000	7,539	8,867	7,876	7,634	7,799	8,773	9,210	7,440	7,756	8,286
血小板製剤	370,650	30,990	30,180	27,975	30,650	30,300	30,995	32,035	32,105	32,710	30,810	30,285	31,615